

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ全員で勉強会を行い理念を作りあげている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有する為、月1回の会議を通して確認を行っている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム便りや家族交流会を通して、理念や方針を伝えている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に立ち寄ってもらえるようオープンにしている。お茶屋さん、パン屋さん、野菜屋さん等も気軽に立ち寄ってくれる。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に入り、広報や地区の行事の連絡等してもらい、参加出来る所は参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	計画はあるが実地に到っていない。	○	地域での介護相談や高齢者の支え合い活動などを積極的に行っていききたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月初めに評価し、改善できることは早めに改善するよう努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の取組みをメンバー全員に周知してもらい取り組みやすい計画をたててみた。	○	メンバーの参加率が悪いこともあったので、今年度は日時も25日と決め、メンバーも家族、スタッフ、老人会長有識者を多くの参加者にした。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報収集の場として行政とは連携を持っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の利用が必要な利用者には制度の利用を勧めている。研修の機会がある時には参加している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で意識を持ち、気付いた時点で注意し合う等防止に努めている。利用者に対しての言葉かけ、動作等については日頃から意識を持っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの見学をしてもらっている。契約は充分時間をかけ納得できるまで説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフは常に利用者の観察する能力を養い、利用者の言葉には常に傾聴するよう心がけている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調不良や突発的な事故などは早めに家族に連絡し、状況、結果も報告している。スタッフの異動はホーム便りで知らせている。	○	通院時に付き添いが出来る家族には付き添いをお願いしている。遠方の家族には受診報告書を送付して報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望、意見、不満、苦情が言い易い、雰囲気作りを心がけている。	○	意見、不満、苦情があった時はスタッフ間で周知徹底するよう努めたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見、提案は常に耳を傾け、業務改善に取り組んでいる。	○	スタッフが意見を出し易い場の設定作りに心がけたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフの配置を常に考え、どんな対応でも十分取れるよう心配りしている。 事前に対応が必要な時、時間の調整が必要な場合は、朝のミーティングを利用して調整している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やさしい声かけを心がけ、常に見守りを怠らず、安心して生活出来るよう支援している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の施設に研修に行き、良い所は見習い、工夫すべきは皆で考えを出し合っている。	○	スタッフの段階ごとに研修をし、質を高める努力はしている。研修後は復命し、スタッフ全員が質が高められる環境作りはしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に定例会を持ち、同業者間での交流は行っている。	○	まず基礎から勉強を始め、初心にかえり一から始める事から取り組みたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減の取組みは行っている。遠方への施設視察研修を兼ねてリフレッシュを取り入れている。	○	研修を兼ねた市外、県外への旅行も今後も多いに取り入れてリフレッシュを計りたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ一人一人が働く意欲が持てるよう、又、勤務状況についても日々観察は行っている。	○	職員個々の意識改革をする事から取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に本人からの様子、状態把握する中で本人が困っていること、不安などを聴き逃さない努力はしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談面接から困り事や不安などを十分に時間をかけてよく聴く機会をつくり、受けとめる努力はしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が安心して生活出来るような対応、支援を一緒に考える。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が少しでも早く馴染めるよう時間はかかってでも本人の希望を優先し、楽しく過ごしながら慣れてもらおう。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の方法や習慣などを聞き出したりして、時には手伝えることは手伝ってもらったりして感謝の気持ちを伝えている。		

宮崎県日向市 グループホームよりあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	十分に家族との関係は築かれている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	遠方の家族へ定期的に手紙を書いたり、電話での連絡を取りながら関係作りに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう、本人が希望する時には支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のいたわり、思いやりはスタッフが時には媒介となって関わりを持つようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了してもホームの様子を時折手紙で知らせたり、連絡を取り合うなどして継続している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	観察し意向の把握に努めながらアセスメントを行い課題を明らかにしている。一人ひとりの状況の変化に対応出来るようスタッフ間の情報の共有化をしている。	○ 一人ひとりの思いを尊重し、束縛せず、楽しくのんびりと過ごしながら生活のメリハリをつけて生き生きと過ごせるよう支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	回想法をもちいて生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。家族からの聞き取りやサービス利用時の情報把握を実施している。	○ 回想法をもちいて、本人が一番輝いていた頃の話や出来事、大切に思っていること等を聴き内面世界を共有していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態や現状能力を把握し、無理の無い一日の過ごし方を支援している。出来る事まで手出ししないよう掃除や洗濯物たたみ、お茶入れなどお願いしている。適切な声かけ誘導をしながら日中の活動を支援している。	○ 認知症があっても、まだ自分で出来る事への支援を考えていき、共に支え合う生活を支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送り時や月一回のケア会議を開き、課題と支援方法をスタッフ全員で話し合い介護計画を作成している。家族の関心や協力を得られないまま、介護計画を作成することが多い。	○ 家族の理解を得て一緒に利用者本位の介護計画を考えていきたい。必要な関係機関のアドバイスや意見も反映して作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送り時や見直し以前に変化が生じた場合は速やかに家族に現状を報告し、新たな計画を作成するようにしている。定期ケア会議や必要時その都度会議を開き介護計画の見直しをしている。	○ 一ヶ月、三ヶ月、六ヶ月ごとに介護計画の見直しをする時に家族と一緒にサービス提供者会議を開き、現状に即した介護計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や個別や記録は確実にを行っている。申し送りや情報伝達は確実に行えるよう申し送り帳に書き確認のサインをしている。気づきやケアの変更の情報を共有し実践している。	○	情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時間の制限なくいつでも家族が来れるよう、柔軟な支援をしている。	○	状況、要望に応じて馴染みの関係や家族の絆を柔軟な対応で支援していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	七夕祭りの飾りつけ出展や避難訓練にも参加協力している。平岩地藏祭りや本人が住んでいた地域の文化行事にも一緒に参加し楽しむことを支援している。ボランティアも随時受入れ、教育機関などと協力している。	○	地域の中で生活出来るよう民生委員やボランティア、消防、文化・教育機関と協働していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況に応じて、家族や本人と話し合いながら他のサービス利用も考えていく方向性は持っている。	○	本人の状況に応じて本人や家族の意向を尊重しながら他のサービスを利用するための支援をしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	生活保護の利用者や遠方に家族が居る場合、相談窓口として介護認定申請時など利用している。また、利用時に地域包括支援センターとアセスメント・ケアマネジメントなど協働している。	○	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的なケアマネジメントについて地域包括支援センターと協働していきたい。

宮崎県日向市 グループホームよりあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望を優先している。かかりつけ医に相談しながら定期受診をしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症状が重くならないうちに診断・治療が受けられる体制はある。	○	認知症の専門医と関係を築きながら、利用者が診断や治療を受けられるよう支援していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職を中心に薬の管理は行っており、利用者が服用する薬はスタッフ全員が承知するようにしている。	○	地域の看護職に相談や健康管理の支援も考慮していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	リロケーションダメージを最小限にしたいので、常に早期退院を求める話し合いは行っているが、医師の判断もあり、円滑にいかない場合もある。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してぎりぎりまでスタッフ全員で介護をしたが、最後は家族に説明して同意の上、かかりつけ医と相談してもらい方針を決めてもらった。	○	出来るだけ早い段階から家族やかかりつけ医と話し合い方針を共有していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した利用者をチーム全員で支援して取り組んだ一方、出来ないことを見極め、かかりつけ医や専門医に支援を求めた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えのダメージが起こらないよう、関係者に十分情報の提供を行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを守ることについては最小限の対応に心掛けている。記録、個人情報についても十分守られている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望、自己決定についてはスタッフは十分耳を傾け、選択の予知も沢山出来るようスタッフも努力はしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望は十分受け入れている。スタッフもその支援にそえるよう配置を話し合い、柔軟な対応が取れるようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみ等は常に心配りをし、定期的に理美容院に行くようにしている。	○	家族の協力が得られる方は十分その協力を生かしていきたい。

宮崎県日向市 グループホームよりあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや行事食、旬の野菜などを多く取り入れ、個々人に合った工夫はしている。利用者が出来ることは、手伝ってもらっているようにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの好みに十分対応している。外食も取り入れ、食事の供与にならないよう配慮はしている。	○	今後も趣向を取り入れていきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の支援は十分気遣いしながら支援している。日中は出来る限りオムツをはずすことにしている。	○	夜間のみ紙パンツの必要性がある人については、今後検討していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望は本人の意向を十分に受け入れている。希望があれば夜間の入浴も行っている。	○	入浴時にレベル低下でスタッフ一人での入浴が困難な場合においては二人での介助も行っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の温度、音、換気には十分注意している。夜間の空腹での不眠、排尿回数が多くて不眠につながる場合の対応も配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を十分に生かし、楽しみごと出来るだけ個々人に合ったものを考慮し支援している。		

宮崎県日向市 グループホームよりあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームに来てもらうパン屋さんがいるので、希望により買い物をしてもらっている。	○	お小遣い程度の所持金を家族の面会時などを利用して伝えていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出かける支援は希望にそって計画している。	○	今後も継続していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族が遠方までドライブに連れて行ってくれるなど定期的に行われている。	○	家族の協力が得られているので助かる。今後も多に協力を求めたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方からの家族の手紙が定期的に届いたり、電話で近況を知らせるなどの支援は行っている。	○	月一回のホーム便りが架け橋となっている。今後も継続していきたいし、手紙などの支援は大切にしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームを訪れる方は多い。特に行事などの時は家族、知人が多勢で訪れてくれる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	設立当初からの方針で身体拘束をしないケアを目指している。		

宮崎県日向市 グループホームよりあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム全体をオープンにし、気持ちのよい出入りが出来ることを目指している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確認の周知徹底を日頃から心掛けている。物音、センサーの音には常に耳を傾けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管の仕方に気をつかうようにしている。薬品類、洗剤類などには特に注意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応は家族にも連絡している。医療機関にも連絡し適切な指示を仰いでいる。	○	事故防止、緊急時の対応の取り組みの勉強会を行い、常日頃からの心構えをもちたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生の原因の早期除去、改善に努め、リスクについては定期的に事例を通して勉強会を行っている。	○	自信をもってスタッフが対応できる訓練を行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域への働きかけ、避難経路の周知を日頃から行っている。	○	防災訓練の徹底をはかりたい。

宮崎県日向市 グループホームよりあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクの高い利用者については特に家族との話し合いが持てるよう努力している。	○	起こりうる予測を常に持ち、抑圧することなく見守っていききたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフ全員で情報の共有を持ち早期対応に努めている	○	観察能力を養い、異変に早く気付くことを徹底していききたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に利用者の服薬をしている。薬の内容を知る機会を作っている。	○	薬の内容、保管場所、服薬の仕方など周知徹底していききたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便のサイクルを把握し、便秘の改善と予防には努力している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけ、誘導を行いながら口腔ケアを支援している。口腔内の状態は利用者の状態に応じて行っている	○	今後も口腔ケアの徹底を行っていききたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の形態の工夫や体重の増減などの気遣いをしている。	○	残菜が殆どないが、今後もバランスのよい食事が提供出来るよう努力していききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防は日頃より細心の注意を払っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材の使用は常日頃より心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はいつもオープンにし、入りやすくしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の光の調節やテレビの音、スタッフの話し声、声の大きさなどは十分に注意を払っている。臭いのない気遣いも十分行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は馴染みの物を使用し、落ち着く居場所作りの工夫をしている。		

宮崎県日向市 グループホームよりあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と本人で居室の工夫をしてもらっている。部屋ごとにカーテンの色が違うことで、利用者自身が部屋を覚え易いこともある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節は各部屋ごとに温度計をつけ、こまめな調節を行っている。建物の構造上、夏は自然の風が入り涼しく過ごせるし、冬は日当たりがよいので助かっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常日頃から、生活リハビリということを念頭におき、自立した生活が出来るよう支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の分かる力を把握し、沢山の経験をしてもらうことで努力している。混乱や失敗を防ぐことをスタッフ間が常に共有意識を持ち、支援体制を作っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広々としたベランダを自由に使用して楽しんでもらっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然環境の良さを利用した建物であるため、風通しの良さや臭いのこもらない環境作りに取り組んでいる。
利用者が落ち着いた状況の中で、ゆったり・のんびりをモットーに安心・安全のケアに努めている。
月一回欠かすことなく発行している「よりあい新聞」に力をいれている。